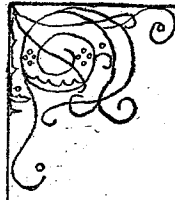




本巻は前巻に附あり
第四巻総目録

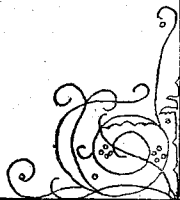
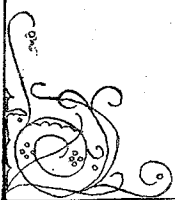


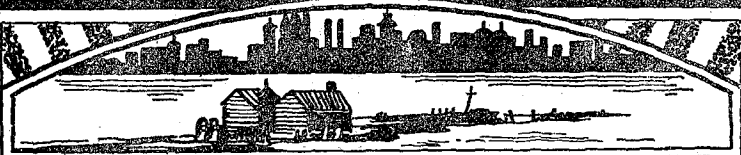
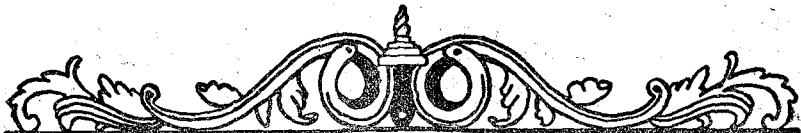
七
月
一
日

道
路
の
改
良

昭
和
七
年

卷 四 十 第
號 七 第





言 頭 卷

農村救済乃至振興問題擡頭し臨時帝國議會の重大問題と爲つた、現内閣は、之が對策を樹立し更に臨時議會を招集して附議すべきことを言明し、今は關係各省に於て對策を研究中であると言はれてゐる。農村問題は今に始まつたことでなく數年來の懸案として識者が夙に絶叫して已ま無かつたのであつたが、政府當局は之を輕視して都市發展策に耽つてゐた、今回之が爆發して今更のやうに慌て、對策を研究するが如きは政府の著しい怠慢と言はねばならぬ。

傳へらるゝ所に依ると、年額五億とか十億とかの鉅費を投じて救済を策すと、無策に越した妙案ではあるが、一面又此救済に依つて農民の精神的生活を破壊してはならぬ、即ち農民は農民の自力に依つて生活し進展すると言ふ自負心を失はしめてはならぬ、之が爲に農民の勞働を必要とする事業を各地に起興して就勞せしめ、之に依つて得たる勞銀を地方に潤はしむるに在る、此目的を達せしむる爲には土木事業を起すに加はらない、就中人の生活する隨所に在る道路を改良することは最も事業の性質に適合するものと言はねばならぬ。蓋し失業者救済の場合に於ても道路の改良事業のみを起興し當初豫期した目的を達し得た事實が有力に之を證明するが故である。

關係各省が目論んでゐる事業は澤山あつて、是等事業の總てを執行することは固より結構ではあるが、赤字公債を發行してゐる現在に於て夫れが許されないとすれば、事業を選択するの必要がある、此場合に於て政府は事業の起興に依つて農民を就勞せしめ、其の事業の爲に農村を進展せしむる道路の改良事業のみを起興せむことを希望して已まない、即ち之が農村救済乃至振興策として上乘のものたることを提唱する。